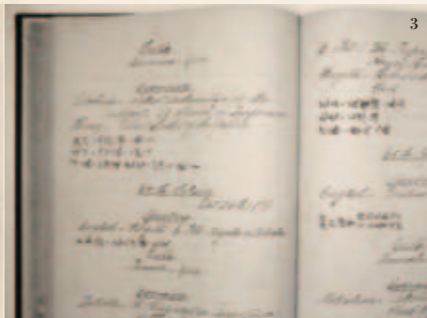


挑戦の140年

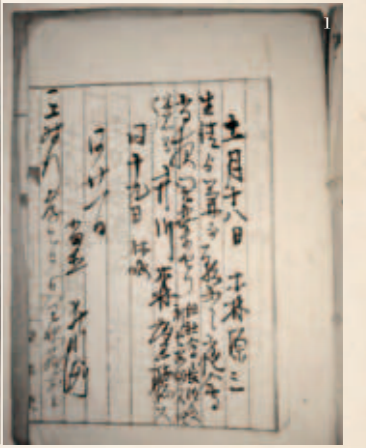
SCENE-3

1876-1923

「開識社」と「遊戯会」



1. 第1回開識社開催を記録した「当直日誌」(1876年 大学文書館蔵)
2. 開識社再建を記載した「寄宿舎記録」(1901年 大学文書館蔵)
3. 「開識社記事」(1878年 大学文書館蔵)
4. 遊戯会開催を提案したD.P.ベンハロー(1877年頃 大学文書館蔵)
5. 開識社結成に参加した第一期生(1879年頃 大学文書館蔵)
6. 新渡戸稲造による第1回遊戯会競技イラスト(1878年 盛岡市先人記念館蔵)
7. 『第拾六遊戯会報告』(1897年 大学文書館蔵)
8. 創立25周年記念遊戯会(1901年 大学文書館蔵)
9. 第3回遊戯会を記録した志賀重昂の日記(1880年 大学文書館蔵)
10. 遊戯会の絵はがき(1918年 大学文書館蔵)



課外活動の始まり

札幌農学校の開校時、初代教頭W・S・クラークは自身が学長を務めるマサチューセッツ農科大学に就いたカリキュラムを編成し、当時の日本の高等教育機関では例を見ない「Elocution」(演説法)を組み込んだ。英米名士の演説を暗誦して、その態度や抑揚の指導を受けるというものであった。

開校から二ヵ月半後の一八七六年十一月一日、第一期生の十九名全員が署名し、「知識を広め、同時に日本語・英語両方の演説法と文章表現法を上達させるため」、課外に文学会を開く許可願を校長に提出した。授業で学んだ演説法を、自主的な課外活動として実践的に磨く場である。

「開識社」の演説・議論・討論

十一月十八日の夜、佐藤昌介を会長として第一回会合を開き、以降、毎土曜日午後七時に開催した。この会合は結成目的に因み「開識社」と名付けられた。基本的に農学校生による活動であったが、時には「或る晩クラーク先生が他の教師を連れて、突然実見に来たのは最も不意の襲撃で、時に小野琢磨氏が十五分斗り立ち往生した」と佐藤が回想したように、教員が顔を出し、演説者を面食らわすこともあった。

「わが札幌をしてスコットランドのエジンバラの如く学芸の淵源地たらしめねばならぬ、この地を“Athens of the North”たらしむるのが、我々の希である。」

学校運動会の嚆矢「遊戯会」

一方、一八七八年六月一日、クラークと共に教師に着任したD・P・ベンハローの提案により、札幌農学校は「Athletic Sports」を開催した。当初は「力芸」「力戯」と訳していたが、後には「遊戯会」と呼ぶようになった。札幌農学校の遊戯会は、定期的に開催する日本最初の学校運動会であった。

第二期生である新渡戸稲造は母親に宛てた書簡に、第一回遊戯会の様子を伝えている。開拓使本庁舎の門前で実施したこと、見物人が四、五百人に上ったこと、さらに、イラスト入り

“Athens of the North”

札幌農学校では、このほかにも聖書講義をはじめ、様々な課外活動が盛んであった。クラークと第一期生が冬の稲穂で植物採集を行ったことに始まるフィールドワークは、後に夏季休暇中の課外行事となり、学校修学旅行の嚆矢との指摘もある。

第二期生は入学時、「Athens of the North」を合い言葉に、建設間もない札幌を学芸・文化の街として「北のアテネ」にしたいと考えた。こうした思いは初期の農学校生に共通するものであっただろう。東京など本州以南の歴史ある都市とは違い、新興都市である札幌では知的欲求を満たす文化も様々な感性を刺激する娯楽も、自分たちで一から形作る必要があった。課外活動の興隆は若き熱情の発露でもあった。



- 1876年11月 - クラークの助言により開識社を結成・開催
- 1877年 1月 - クラークと第一期生が手稲山でフィールドワークを実施
- 1878年 6月 - 第1回遊戯会を開催
- 1890年 5月 - 遊戯会運営組織として札幌農学校遊戯会を結成
- 1893年11月 - 前年春から活動を休止していた開識社を一時的に復活
- 1901年 5月 - 創立25周年記念遊戯会を開催
 - 9月 - 遊戯会運営組織が文武会遊戯部となる
 - 10月 - 寄宿舎において開識社を再建
- 1923年 5月 - 文武会遊戯部を陸上競技部に改編
 - 6月 - 最後の遊戯会を開催(第40回)

大学文書館 だいがくぶんしょかん Hokkaido University Archives
北海道大学に関する歴史的な資料を収集・整理・保存して利用に供するとともに、北海道大学史に関する調査・研究を行っている。